

「東海村“自分ごと化”会議」提案書

(案)

年 月 日

東海村“自分ごと化”会議

目次：

1. はじめに	2 P
2. 「東海村“自分ごと化”会議」の概要	3 P
3. 6つの提案	4 P
4. 付録 参加者アンケート結果	■ ■ P

～ はじめに ～

私たちは2020年12月から2021年12月まで、5回にわたって「東海村“自分ごと化”会議」の参加者として“原発問題”をテーマに話し合ってきました。

年 月 日

「東海村“自分ごと化”会議」参加者一同

2. 「東海村“自分ごと化”会議」の概要

2020年12月から、“原発問題”をテーマに、無作為抽出によって集められた東海村民による議論を行いました。

会議参加者

※所属は会議に参加した当時のもの

村民	<ul style="list-style-type: none"> ・無作為抽出村民 26名*1 *1 住民基本台帳より無作為に選ばれた1,000名の中から応募した方
コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ・伊藤 伸 氏（構想日本 総括ディレクター）
話題提供者	<p>専門家の立場から議論にあたっての論点の提示や話題を提供する役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福嶋 浩彦 氏 （構想日本 理事、自分ごと化会議 in 松江実行委員会・共同代表、中央学院大学教授） ・谷口 武俊 氏（東京大学名誉教授、東京大学公共政策大学院客員教授） ・高島 正盛 氏（日本原子力発電(株) 東海事業本部 地域共生部長） ・井上 武史 氏（東洋大学 経済学部 総合政策学科 教授） ・茅野 恒秀 氏（信州大学 人文学部 准教授）

各回概要

日時	内容
講演会「“原発問題”を自分のこととして考えるとは？」 2020年 9月19日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ・全国で開かれる自分ごと化会議の意義について ・自分ごと化会議 in 松江の取り組み ・パネルディスカッション（山田 修 氏（東海村長）、吉岡 古都 氏（自分ごと化会議 in 松江実行委員会・元広報担当、薬剤師）、福嶋 浩彦 氏） など
第1回 2020年12月19日（土）	<ul style="list-style-type: none"> ・東海村“自分ごと化”会議の概要説明 ・基調講演（対談形式）「原発を考えるための視点」 ・自己紹介 ・オンラインディスカッション「自分ごと化会議 in 松江での議論」（自分ごと化会議 in 松江参加者（3名）、福嶋 浩彦 氏、伊藤 伸 氏） ・全体協議 など
第2回 2021年 3月28日（日）	<ul style="list-style-type: none"> ・話題提供「東海第二発電所の今とこれから～メリットとデメリット～」 ・全体協議、改善提案シートの記入 など

<p>日本原子力発電株式会社 東海発電所・東海第二発電所施設見学 2021年 5月22日(土)</p>	<p>見学先</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東海発電所廃止措置状況(中央制御室、熱交換器 他) ・東海第二発電所屋内施設(原子炉建屋内) ・東海第二発電所屋外施設(各種安全性向上対策工事) ・使用済燃料乾式貯蔵設備 ・発電所構内外周(防潮堤、常設代替高圧電源装置置場 他) など
<p>第3回 2021年 7月23日(金・祝)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原子力防災について(東海村広域避難計画(案)) ・原子力と今後のまちづくりについて(東海村内の原子力関係事業所、東海村第6次総合計画における位置づけから) ・改善提案シートの記入 など
<p>東京電力ホールディングス株式会社 福島第一原子力発電所施設見学 2021年10月 3日(日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福島第一原子力発電所の現状と今後の対応 ・福島第一原子力発電所・福島第二原子力発電所の概要と津波被害状況 ・福島第一原子力発電所は今 ・発電所構内施設見学 など
<p>第4回 2021年10月 9日(土)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで考える、東海第二発電所が立地していることによる地域の課題は何だろう? ・私にとって、東海第二発電所そのものが抱える課題は何だろう? ・改善提案シートの記入 など
<p>第5回 2021年12月19日(日)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「東海村“自分ごと化”会議」提案書(案)について ・意見提出シートの記入 など

3. 6つの提案

本提案は、私たち「東海村“自分ごと化”会議」参加者が、これまでの会議で議論してきたことや、各回で記載した「改善提案シート」の内容を中心にまとめたものです。

提案

1. 原子力や原発に関してできるだけ正確な情報を整理し共有する。行政や事業者と住民との情報のギャップを埋める。

提案

2. 東海第二発電所の安全性を強化する。安全性向上対策工事のプロセスやそれでも残るリスクについて、住民に丁寧に説明する。

提案

3. 安全に避難できるよう、避難ルートをはじめとした避難計画を整備する。

提案

4. 原子力事業所が多いことや原発立地による交付金など、東海村のいまの特徴や現状の魅力を知る・伝える。

提案

5. 原発に代わる新たな東海村の魅力を創り出す。（交付金が減ることを想定したまちづくり）。

提案

6. 原発に賛成、反対、どちらでもない人など多様な人が参加して、建設的な議論を行う場を多くつくる。

提案

1. 原子力や原発に関してできるだけ正確な情報を整理し共有する。行政や事業者と住民との情報のギャップを埋める。

会議参加者の中で「原発があることが当たり前」と感じ、原発についての切実感や危機意識が薄れている人が多いことがわかった。原発に関する情報について、何が正しいのかを一人ひとりが正確に判断することはとても難しいが、「正しく恐れる」ために、メディアやネットの情報を鵜呑みにするだけでなく、自分で調べ考えることが重要。行政も差し障りのない情報だけでなく、行政として考えるメリットやデメリットについても発信していくことが必要となる。それによって、行政や事業者と住民との情報のギャップが埋まっていくのではないかと。

「提案 1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

- ① 個人で色々な情報に耳を傾けて収集し、周りと共有していく。
- ② 原発を当たり前と思わず、あり方を考える（危機意識が欠如していた）。
- ③ 発信される情報について「わからない、面倒だ」などと思わないよう、最低限の判断基準を持つ。

私たち村民

- ④ 自分で調べ、自分で考える。メディアやネットの情報を鵜呑みにしない。
- ⑤ 発信される情報を基に自分なりにメリット・デメリットを考え、原発の是非やエネルギー政策について意見を持つ。
- ⑥ 「正しく恐れる」ための知識武装として、疑問点は納得するまで調べる、聞く。

地域

- ① 疑問点を調べたり、議論する場を、コミュニティセンターを中心に地域で設ける。

行政

- ① 行政として考える原発があることのメリットやデメリットを発信する。
- ② “自分ごと化”会議の内容を、広報紙や HP 等で周知する。
- ③ 村のビジョンをもっと強く語ったり、周知したりしていく（村としてのゴールが明確でないと課題設定できない）。

原子力事業者

- ① 改善した点などは正しくわかりやすく伝える。

※「原子力事業者」とは、日本原子力発電をはじめとして、村内にある原子力関連事業者全体を指している。

《参加者による個別の補強意見、もしくは異なる意見など》

▼正しい情報の共有に関すること

- 村民の原発に対する認知度が低い。村民がもっと原発を知れば、避難計画や安全対策への意見が出るのではないかと。
- 村長の「メディアより先にいかに正しい情報を発信するか」という話は良かった。裏を返せば、メディアによって不安をあおられることがあるということ。
- コロナや異常気象でもそうだったが、フェイク情報や専門家と称する人で意見が割れるのが課題。これらの情報に迷わされないことが必要。非常に難しいと思う。

提案

2. 東海第二発電所の安全性を強化する。安全性向上対策工事のプロセスやそれでも残るリスクについて、住民に丁寧に説明する。

東海第二発電所は運転開始から40年以上が経過している。事業者は古い設備の刷新や安全性向上対策工事を進めているが、100%の安全というものには存在しない。つまり、安全に終わりはないことをしっかりと認識しておく必要がある。また、現在行われている安全性向上対策工事の具体的な内容や、それでも残るリスクについてなど、まだ住民に浸透していない。村民の安心・信頼を得るためには、情報を公開し、きめ細かく、丁寧にわかりやすく説明することが重要である。

「提案2」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち村民 ① 東海第二発電所を見学し何が危険なのか、安全なのかを考える。

地域 ① 自治会などで原発の見学会を主催する。

行政 ① 地震等災害発生時の村内放送を充実させる。
② 災害時の対応を分かりやすくする（マンガなどを使って）。

原子力事業者 ① 事業者である責任を持ち、発電所の安全性向上対策工事の状況やどの程度安全になるのか、事故時の対策について、村民へ個別訪問等でわかりやすく説明する。
② 監視できない部分での想定外の事象を、どう想定していくのか検討する。
③ ホームページなどで、新規基準によってどれくらい安全になるのかを説明する。

《参加者による個別の補強意見、もしくは異なる意見など》

- 安全審査の項目は承認認可されても、見えない配管部分などに金属疲労による損傷があるかも知れない。国・事業者・原発メーカーは、安全審査項目以外の部分を含めて説明してほしい。
- 原発の衛星写真が取り放題なのは問題なのでは？映らないようにはできないのか？
- 東海第二発電所は古いので、改修工事だけではなく、最新鋭の炉にリプレースして安全な発電所を作るほうが良いのではないかと（放射性廃棄物についても併せて検討する）。

- 安全性向上対策費用にお金を費やすだけでなく、廃炉にする費用、または代替エネルギーに移行することを検討する。

3. 安全に避難できるように、避難ルートをはじめとした避難計画を整備する。

災害が起きたときに村民が安全に避難できる計画の整備は必要不可欠だ。しかし、「東海村広域避難計画」は未だに“案”のままで、避難ルートの整備や避難方法の周知などに課題が多い。災害はいつ起こるか分からないからこそ、東海第二発電所の再稼働のためではなく、村民と周辺自治体の住民に安心と安全をもたらすために、避難計画を確立することが必要である。また、適切な避難行動を取れるよう、避難訓練をさらに実効的なものにし、安心なまちづくりを進めていく。

「提案3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち村民

- ① 避難にあたって行政に準備してほしいことや改善策を提案する。
- ② 自分の避難先、避難ルートを予め下見しておく。
- ③ 避難訓練に参加し、改善に向けた意見・課題を挙げる（有事の際の考えるきっかけ、行動につなげる）。
- ④ 村のルールを家族内で共有し、有事の際の家族での行動を決めておく。
- ⑤ 別居している家族がいる場合も、それぞれの家庭での行動を決めておく。
- ⑥ 家にある車一台は避難用の車に決めておき、日常に使いながらも、燃料に余裕を持たせ、車内に避難先で必要となる物資を用意しておく。
- ⑦ （災害時は、）自家用車での移動だと渋滞を招くので、公共バスを利用する。
- ⑧ 避難を前提としたまちづくりを進めるよう、地域、行政、事業者に訴えかける。政治にも要請する。

地域

- ① 避難訓練に地域として参加する機会を設ける。
- ② 避難訓練参加を呼びかけ、意見・課題・疑問点を集約し村へ提出する。
- ③ 自力で避難できない人を事前に把握しておく。
- ④ 自治会などの防災の取り組みを原子力災害の時にも活かせるようにする。

行政

- ① 避難計画の実効性を高める取り組みを継続して行う（避難訓練、シミュレーション）。
- ② 今後の改善点を明記したうえで、計画を正式決定する（運用を開始する）。その際、専門家の意見を取り入れる（必ず第三者から見た状況把握が必要）。
- ③ 運用開始後、必要に応じて計画を更新する。また、定期的な見直しを行う。

- ④ 学校教育の中に、避難計画についての学習と避難時の行動を考える機会を組み込む。
- ⑤ 近隣市町村とともに、県に合同広域避難訓練実現の要請を継続して行う。
- ⑥ 避難ルートของ安全性や原発事故対策が不明確なので、住民への説明を丁寧にする。
- ⑦ 避難時の渋滞対策や、津波や地震で道路が寸断された場合も考えた避難ルートについて、さらに検討をする。
- ⑧ スパコンでシミュレーションして、まず今のプランで避難が実現可能なのか確認してみる。
- ⑨ 避難時の一時集合場所が一目でわかるよう、看板の設置など見える化する。
- ⑩ 村民のスマートフォン等に避難所の情報を配信し、随時更新していく。
- ⑪ 避難用の自家用車は常に燃料に余裕を持たせ、避難時に必要な物資を積んでおくなど、避難行動を意識づけするための情報発信を行う。
- ⑫ 自力で避難できない人の手助けができる人材を確保する。
- ⑬ 避難所に廃校を利用したり（例：桜川市の紫尾小学校。駐車場も校庭があるので台数確保可能）、避難所の専有スペースは、感染症対策とプライバシーを考慮して2mを超えるようにするなど、検討を進める。
- ⑭ 県は、各市町村に避難計画の策定を促す。

原子力事業者

- ① 行政と協力し、広域避難計画策定と、実効性の向上（避難訓練、シミュレーション）に取り組む。
- ② 事故発生時、速やかな状況報告を村・県・国に対し同時発信する体制をつくる（早急な決断には伝達ではなく同じ情報を共有することが重要）。
- ③ 一事業者ではあるが、住民の安全には責任があるので、有事に備えてシェルターの整備や、警察や自衛隊との連携など独自の対策を強化する。
- ④ 地域や行政に資金提供する。

その他

- ① メディアは、避難に関する取り組みを、ネガティブではなくポジティブに報道する。

«参加者による個別の補強意見、もしくは異なる意見など»

- 計画を確定したうえで、避難後の補償体制を確立する（生活と財産の速やかな保障）。
- なぜ避難計画が“案”なのかを住民が理解できていれば“案”でも良い。
- 東海村は原子力による恩恵を受けているが、周辺自治体は特に直接的な恩恵を受けていないにもかかわらず、広域避難計画等を策定しなければならない（言い方は悪いが、デメリットしかないと思われかねない）。
- 避難計画が完成しなければ、原電が再稼働できない。裁判では、いつまでも無理と感じる。
- 国は災害発生時の補償について、福島第一原子力発電所事故を例に検討し、再稼働までに住民に説明する。
- 高速 IC の入口までなど避難専用道路を作ることはいか。車で避難する人がほとんどだと思っているので、渋滞を緩和するのに有効だと思ふ。
- 全国にある限界集落を避難する場所にすることはできないか。
- 避難先をあちこち移動するのなら、避難する集落を決めておいて、そこに地区ごとまとめて避難するのはどうか。

4. 原子力事業所が多いことや原発立地による交付金など、東海村のいまの特徴や現状の魅力を知る・伝える。

東海村には、東海第二発電所以外にも最先端の原子力関係の研究施設が多くあり、原子力に係る国からの交付金が、私たちの生活に大きく影響を与えていることなど、東海村は全国的にも大きな特徴を持っている。村で行われている研究の内容や、交付金の具体的な使われ方など、東海村の今をもっと詳しく知ること、村を今まで以上に自分ごとに捉えることができる。また、これらの特徴と向き合うことで、村のさらなる魅力につなげることもできる。私たち住民は、村の特徴、魅力をさらに知る努力をし、行政は村の特徴をしっかりと伝えていく。

「提案 4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち村民

- ① 東海村の歴史を周囲と一緒に学び、郷土愛を深める。
- ② 村の強みについて学ぶ。
- ③ 原子力に対する理解を深める。
- ④ 原子力とは何なのかを子どもに教え、話し合い、次世代に伝えていく。
- ⑤ まちづくりは人づくりにつながるの、子どもたちに東海村のことを伝えて行く。
- ⑥ 重要インフラを支えている村民であると自覚を持つ。

▼交付金に関すること

- ① 交付金の仕組みを理解、納得できるよう知識をつける。
- ② 交付金を用いた取り組みによる新しいサービスを活用する。

地域

- ① 地域ごとに「“自分ごと化”会議」を開催する等して、東海村への理解を深める（原子力事業のメリット・デメリットだけでなく、東海村の中での原子力の意味を理解する）。

行政

- ① 原発、原子力の良いイメージの話ばかりではなくリスクなどについても、もっと住民に伝える。
- ② 原子力災害以外の災害にも強い村として PR する。
- ③ 村外に出た若者が戻ってきているかの現状を把握するため、アンケート調査する（戻ってこない理由も聞く）。
- ④ 村内の小・中・高校において、原子力に関する理解を深める教育を行う。高

校卒業後の定住率向上に繋げる。

- ⑤ 若者に村の魅力を発見してもらい、郷土愛の育成に貢献する。

▼交付金に関すること

- ① 交付金の仕組みや全体像を、村民に理解してもらうための活動をこれまで以上に強化する。
- ② 使い方の柔軟性を高めるよう国に要望する。現在は、交付金の使われ方が限定されているので不可能かも知れないが、将来に向けて、村で一部貯蓄できるようにする。

原子力事業者

- ① 東海原子力館の充実を図る。
- ② 原子炉の中の仕組みを、簡単な言葉で表現する。
- ③ 住民にとって応援できる事業者になる。
- ④ 研究のブランドを高める。
- ⑤ 村内の小・中・高校において、原子力に関する理解を深める教育のサポートを行う。村内の学生へ施設見学を定期的を実施する。
- ⑥ インターンシップや職場見学などを行い、地域に開かれた事業者であることをアピールする。
- ⑦ 地域に根差した企業となるため、お祭り等のイベントを開催する。

その他

- ① メディアは、原発について感情論で報道せず、事実と数字で賛否の両論を報道する。

《参加者による個別の補強意見、もしくは異なる意見など》

- 東海村の特色は、“原子力”であることは間違いない。それを生かさずして、今後の東海村に関する議論を進めることはできないと思う。
- 原発が日本として必要であるというメッセージを発信していけないか（再び原子力産業を魅力ある業種にするつもりで）。
- 地域の特徴は、地理的なものを除けば、歴史によって構成されるものが主であると思う。
- 行政や原子力事業者は、しつこく情報提供してほしいが、限界があるのもわかる。

- 東海村内で原子力産業が開始されて半世紀以上が経過したため、村に生まれた子どもは、全国的に見ても原子力リテラシーが高いと考えられる。そのため、今後、東海村内での原子力への理解促進のためには、移住者（大人世代）へのアプローチが必要。
- 原発については、福島事故がクローズアップされて悪いイメージしか報道及び意見交換が行われていないように思える。再稼働か廃炉の話ではなく、事故があったからより安全（発電所での安全対策・避難計画など）になったと伝えられるようにしてもらいたい。
- 東日本震災後、原子力以外の産業創出を試みたと思いますが、10年経っても税収確保できるような産業は育っていないので、やはり原子力産業を続け、原子力と共存共栄していくべきと思う。
- 移住者に対しても原子力の知識（利点とそのリスク）及び避難訓練等を通して、東海村の良い行政サービスを受けるためには必要不可欠である原子力政策に対する理解を促進する。

▼交付金に関すること

- 恩恵は多大に受けているが、このままではいけない。
- 立地自治体と周辺自治体の不平等感をなくす。

5. 原発に代わる新たな東海村の魅力を創り出す（交付金が減ることを想定したまちづくり）。

提案 4 のように、村の特色、魅力をさらに活かしていくとともに、新たな魅力をつくることも必要である。どの原発も、いずれは廃止される。また、国の財政状況や政策の変更があれば、原発関連の交付金が縮小・廃止になる可能性もある。先を見据えて、原発廃止後の東海村のまちづくりや、交付金に頼らない財政運営などについて、今から考えていく。

「提案 5」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち村民

- ① 原発のリスクとエネルギー、安全保障のことを考えていく。本当に他のエネルギーで原発が不要ならば、こだわらず議論していく。
- ② 村の財政に関心を持つ。
- ③ 使用済燃料の保管方法についての安全性を学ぶ。

▼新たな魅力の創出に関すること

地域

- ① 交付金がなくなったとしても、新たな魅力創出に取り組む。そのための周囲の様々な活動を歓迎し、受け入れる。
- ② 「原子カムラ」から「原子カリテラシーが高い地域」へ。原子カスマートシティを目指す。
- ③ 村の農業・産業・イベント等、魅力度を上げる為の企画を行う・情報発信する。
- ④ 交付金がなくなったとしても、それを賄うことができる魅力づくりに取り組む。

▼まちづくり全般に関すること

- ① 東海村の将来について地域で情報を共有し、話し合う場をつくる。
- ② 自分たちで東海村の魅力を見つけ、行政と連携しながら盛り上げていく。

行政

▼新たな魅力の創出に関すること

- ① 原子力以外の魅力について、村民・県民・国民から意見を求めたり話し合う場を作る。
- ② 東海村の人口の少なさ、面積の小ささを逆手に利用して、新たな地域交通手

段の実証実験を行うことができるスマートシティを目指す。

- ③ ベンチャー企業等による実証実験を行いやすくするため、戦略特区などの認定を目指す。

▼まちづくり全般に関すること

- ① 研究機関が多く、全国からも世界からも一時居住者がいるので、それらの人が定住しやすい政策をつくる。
- ② 現在の研究開発企業の拡大と、新規企業への誘致を図り、つくば市の学園都市やサンフランシスコのシリコンバレーのような街を目指す。
- ③ ハコモノは新しく作らず、今あるものを活用したり活用法を見出すための方策を考える。
- ④ 原発を廃止しても大丈夫なように、他のエネルギーによる発電の低コスト化、安定供給、開発にどのように力を注いでいるかを国民に開示する。
- ⑤ 村役場に、東海発電所の廃止措置完了後の対応についてや交付金がなくなった後の対応についての検討組織をつくる。
- ⑥ 交付金がなくなり不足する分の財源づくりに取り組む。
- ⑦

▼新たな魅力の創出に関すること

- ① 廃炉研究など先端的な科学技術を活かして村の魅力づくりに貢献する。
- ② 原発廃止後の産業のための研究に力を入れる。

▼まちづくり全般に関すること

- ① 安全についての重責への理解を前提として、まちづくりに協力する。
- ② 東海村でしかできないことを模索し、実施する。
- ③ 水素などの代替エネルギー活用や、原子力または原子力関連施設を利用した新しいエネルギーへの開発に向けた検討を行う。
- ④ 原発に替わる再生可能エネルギーだけで電力を賄えるように、低コストで効率良く発電できる研究開発に人材を投入・育成する。
- ⑤ 村の現状に加えて、廃炉とその先のビジョンを発信する。
- ⑥ 東海発電所の廃止措置完了後の対応について、行政に働きかける。

原子力事業者

《参加者による個別の補強意見、もしくは異なる意見など》

- 原子力に頼らないまちづくりは以前からたびたび議題にのぼるが、具体的な案が提示され、実行されたことはないと思う。実現している事柄があるなら、もっと宣伝してほしい。
- 他の電力会社の発電所の使用済燃料を受け入れて保管する方向で、国・県・近隣市町村と調整する。
- 今、東海第二発電所で使用済燃料を保管している実績があるので、他の電力会社の原発の使用済燃料を受け入れて保管することで、一定程度の税収を確保できると思う。
- 原発だけでなく、発電割合の大きい火力発電が、コストが安くても使えなくなった場合にどうするのかについても考える必要がある。
- パラスポーツ関連行事を東海村が進めるのもいいのでは。
- 「賃貸住宅1戸建てに30年以上住み続けていると、その土地、建物が自分のものになる」という取り組みはどうか。
- いずれ必ず廃炉になるときがある。その際の村の人口などその先へのビジョンも欲しい。単に「お疲れ様でした」は困る。
- 産業転換になった際には転職のサポートなども行っていく。
- 輸出入の自動車専用車庫を設け、自動車産業の一大モータープールを建設する。
- 原子力に頼った財政の危うさを考慮し、その危うさを村民に訴えかけ、今できる方法で対策を検討する。原子力に頼った財政の危うさを考慮し、その危うさを村民に訴えかけ、今できる方法で対策を検討する。

6. 原発に賛成、反対、どちらでもない人など多様な人が参加して、建設的な議論を行う場を多くつくる。

「原発のことは村の中で話しにくい」との意見が多く出た。議論の場があったとしても、原発に賛成の人だけ、もしくは反対の人だけのものがほとんど。それでは、村民の中に分断が起き、しかも結論がなかなか出ない（どのような結論が出されても納得感が生まれない）。その状況を乗り越える必要があるし、そのためには、今回の「自分ごと化」会議のように、世代、性別、所属はもちろん、明確に賛成や反対の意思を持っている人以外の、「考えているが結論が出ない人」「あまり考えたことのない人」など多様な人との議論の場を多く作ることが重要である。多くの住民が納得感を持つための重要な手段ではないだろうか。

「提案 6」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち村民

- ① “自分ごと化”会議のように、結論を出すことを目的としない話し合いの場に参加する。
- ② 東海第二発電所の再稼働に対し、個人個人が意見を持てるように努力する。
- ③ 知ったこと、自分の考え、何故そう考えたのかを、家族、周囲に伝える。そして相手の話を聞く。

地域

- ① “自分ごと化”会議のように、結論を出すことを目的としない話し合いの場を地域で作る。
- ② 賛成の人と反対の人が、お互い歩み寄るための場をつくる。そのためには原発・原子力だけでなく、広い視点での議論をする。

行政

- ① “自分ごと化”会議のように、村の将来についてなど、結論を出すことを目的としない話し合いの場を作る。
- ② 「コミュニケーション課」のようなものを設置し、議論を活性化させる。
- ③ 全住民へのアンケート等で、原子力に関する認知度を確認する。
- ④ 原発の情報を、風評被害を恐れず SNS 等を活用して発信し、原発について考えてもらう機会をつくる。
- ⑤ 賛成、反対の立場の人について、落としどころや歩み寄れる部分がないかなど、本音で議論できる環境をつくる。
- ⑥ 議論の際、行政職員ではなく第三者の中立的な人にリードして議論してもらう方が良い。

《参加者による個別の補強意見、もしくは異なる意見など》

- 自分で調べ、自分で考える。ケンカになるぐらい議論しても良いと思う。ただし、メディアの入っていない場が良い。
- 原発問題に対し賛成でも反対でもない、「どちらでもない」人の中には、「調べている・考えている」人と「考えていない」人がいる。「考えていない」に属する人たちをどうやって議論に参加してもらうかが課題。
- 今までは賛成・反対の人だけの議論ばかりだった。“自分ごと化”会議は賛成・反対・どちらでもない人みんなで議論ができています。結論を出す場であれば議論の仕方も変わるし、対立することも必要になる。それよりも大事なのもっと「考える場」をつくること。原発以外のことも話し合うことで、住民同士が話し合い、考えることのできる村になっていく。
- 色んな意見が聞けて大変有意義。“自分ごと化”会議のような会議が、もっと多くあったら良いと思う。

□その他の意見

▼カーボンニュートラルについて

- カーボンニュートラルの実践を決めた自治体の紹介があったが、細かく聞かないと東海村や他の自治体に適用できるのかわからない。ある意味実証実験であり、うまくいけば良い部分を取り入れると良いと思う。

▼東海村の緑の保全について

- 開発が進むことで森林が伐採されていく。将来的に CO2 問題が心配。
- 村士の何%緑地を確保する計画なのかを説明していく必要がある。
- 定住推進により自然がなくなり砂漠化している。
- 開拓が進み村の緑がなくなって来ている。村で、“開拓地の何%の緑を確保すること”を条例とする。

▼水戸地方裁判所「東海第二原子力発電所運転差止等訴訟」判決に係る村長談話に関して

- 文中、下から5行目「将来における私なりの判断～」とあるが、立場上「決める」事が役割であり責任だと思う。「将来」と濁さず、正解不正解ではなく、東海村の為にも立ち位置を明確にして欲しい。

▼東海村民憲章に関して

- 「わたくしたちは ゆかしい歴史と 原子の火に生きる 東海の村民です」
再稼働にしても、廃炉の道を進んでいくにしても、東海村民として今一度この憲章のことを考えていきたいと思います。

▼その他

- 東海ステーションギャラリーで展示をされている方と直接話をして、「これがもし東海村でおこったら」と考え、正直、複雑な気持ちになった。でも原発をなくそうとは思えない。何故だろう。
- 有識者の方の意見が片寄り過ぎ。かつ発言が長い。もっと参加者の方々の意見や話が聞きたい。
- やはり時間が足りない。もっともっと参加者の話も聞きたいし、村長の思い等もしっかり聞きたいと思う。

「東海村“自分ごと化”会議」 ～“原発問題”を自分のこととして考える～

参加者一覧

※ 名前の公表に、承諾された方のみ掲載しています。

4. 付録

参加者アンケート結果

第1回 東海村「自分ごと化会議」アンケートまとめ（会議参加者）

1. 第1回東海村「自分ごと化会議」に参加してみてもいかがでしたか。

満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
9件 (50%)	5件 (27.8%)	3件 (16.7%)	0件	0件

※無回答1件

2. 自分ごと化会議に参加しようと思った理由は何ですか。

- 手紙が届いて「原発」について、となっていたので、研究の内容に関することなのかな？と思って参加しました。
- 微力ながら何か自分にできることがあるかもと思ったから。
- 東海村が好きだし、大切だから。
- 一步踏み出そう。
- 原発に関する事項は、大切な重要事項であるため、自分の意思、皆さんの意見を聴いて視点を広げたい。
- 原発について逃げずに議論すべきと考えた。
- 1000人に選ばれたので光栄に思い参加した。参加者の意見を視聴し、「自分のこと」として考えていきたい。
- 面白そうだから。
- 興味本位。
- 原発についてふんわりとしか考えていなかったもので、会議に参加して考える機会になればと思い参加しました。
- 自分の原発に関する意見が言える。
- もともと原発問題に関心があった。エネルギーの発展性に関心を持っている。
- 面白そうと思ったから。村民の方が原発に対してどう感じているか。意見を聞くことはほとんどないので多くの考えに触れることに興味があった。
- 原発について議論についても含め、勉強になると思った。
- 原子力問題に関する村民の意見を聞いてみたかった。また、今後の自分にできることを考えた。
- よく分からないけど、ちょっと参加してみて、自分の経験値が上がるものかと思ったから。
- 2019.9に主催された「自分ごと化会議」についての講演がすばらしかったため。

3-1. 基調講演について

満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
10件 (55.6%)	6件 (33.3%)	2件 (11.1%)	0件	0件

《コメント、質問など》

- J-PARC 公開の時に、研究者の方に質問をすると、さらに内容が難しくなって返ってくる。そのような感じを受けました。
- 少し難しいところもありましたがよかったです。
- 東大名誉教授の話を書く機会はない。リスクの話は面白かった。
- 考えをまとめて話すことは難しいと思えたが、言葉にしやすくしていただいた。
- 興味を持って聞くことができた。少し内容が難しかった。
- 少し難しいのではないかと思った。
- 考えていない知識が増えた。
- 広い視点、考え方が紹介され、理解しやすかった。
- 私にはレベルの高いお話で、申し訳ないですが、あまり理解できませんでした。
- 言葉は難しく感じる。人に説明もできないがなんとなく理解した。
- 初めての人には、内容が難しいと思います。個人的には、リスクと連鎖の内容は満足できました。
- いろいろな意見が聞けたことはとても満足。ちょっと難しすぎてついていけないところがあった。
- 抽象的な話ではあったが、具体的な次元に当てはめると納得できた。

3-2. オンラインディスカッションについて

満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
12件 (66.7%)	2件 (11.1%)	3件 (16.7%)	0件	0件

※無回答1件

《コメント、質問など》

- 松江の方々の話を聞くことができて良かったです。
- 意見を聞いて良かったです
- 皆さんまっすぐにお話をいただいたイメージ。よかった。

- 「自分ごと化」する習慣ができたということが印象に残った。
- 前向きな意見に思えて、本会議も良い方向になればよいと思う。
- 会議者の前向き姿勢が素晴らしかった
- 松江での議論の様子、考え方の変化などを知ることができた。
- 参加してみたの感想等聞けて良かったです。
- 何も知識がなくても、気軽に参加してよいのだと勇気をもらえた。
- 楽しい会議になったと感じました。
- 結論は出せないことが現状なのに同意見。
- 「普通の市民」がここまで変われるという実感が伝わってきた。

3-3. 全体協議の評価

満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
12件 (66.7%)	2件 (11.1%)	3件 (16.7%)	0件	0件

※無回答1件

《コメント、質問など》

- 他の参加者の皆様のように考えたことがなかった。自分にとって原子力は未来に向けての研究に必要なものだったので。
- 時間が少し足りない気がする。
- いろいろ考えることができた。
- 非常にリードされて議論しやすいと思った。
- 進行が良く時間がたつのが早かった。
- 賛否両論お聞きできてよかったです。
- 緊張した。でも、どの様に今後進行していくかわかったので安心した。
- やる気のある方ばかりで、すごいなと思いました。
- 日頃から参加者の感じている意見が聞けて良かった。
- 初回なのでまだ何とも。
- ホワイトボードを使っでの意見集約が素晴らしかった。

4. 次回に向けて用意してほしい資料や聞きたいことなどありましたらご記入ください。

- 新しい炉への取り組み（日本原電でもメーカーでも）。
- 原発による経済効果、数字（雇用人数、13か月点検有無による村内経済効果）。
- 東海村のビジョンを改めて村長の言葉で聞きたい。

- 原発をなくすことは現実的にすぐには難しいので、安全性が確実なのか、実際に事故が起きてしまったときに避難方法やその後の補償についてが知りたいです。
- 語りつくされた内容で満足です。
- 避難する際どのような行動をとればよいか知りたい。
- 原発が怖いと感じている方がいたので、新規規制基準のやさしい資料があれば、今後の内容にも反映できるのでは。

5. 今後の会議開催の時間帯について、ご希望の欄に「○」印を付けてください。

時間帯 \ 曜日	土曜日	日曜日・祝日	いずれの曜日でも可
午前	7	5	3
午後	12	6	3
夕方以降	3	2	2

無回答：1名

6. 今後、会議の様子をインターネット上でライブ配信（生中継）※することを検討していますので、会議参加者の皆様のご意見をお聞かせください。

※ライブ配信を行う場合、「YouTube Live」での配信を予定しています。アーカイブ（録画）は、インターネット上に残しません。

- ライブ配信を行って良い（8人） ライブ配信を行ってほしくない（5人）
 その他（・設備がない、・わからない）（2人）

無回答：3名

7. 本会議の名称はまだ決めておりません。今後、原発をテーマに議論していくのに適当な会議名を皆さんと一緒に決めたいと考えています。以下、4つの候補から1つ選択してください。（左記欄に「○」を一つご記入ください）

5	自分ごと化会議 in 東海村 ～“原発問題”を自分のこととして考える～
5	東海村“自分ごと化”会議 ～“原発問題”を自分のこととして考える～
4	東海村「“原発問題”を自分のこととして考える」会議
2	東海村“原発問題”自分ごと化会議

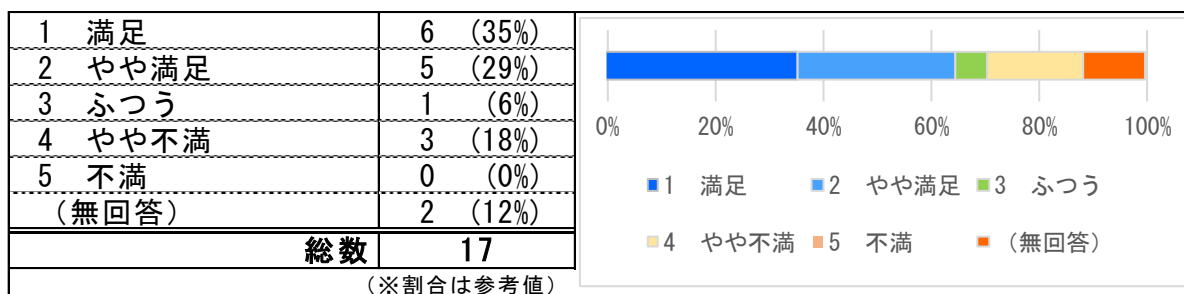
無回答：2名

8. 現時点で、「東海第二発電所」に関して感じることや会議運営に関する要望、今日の感想等がありましたらご記入ください。

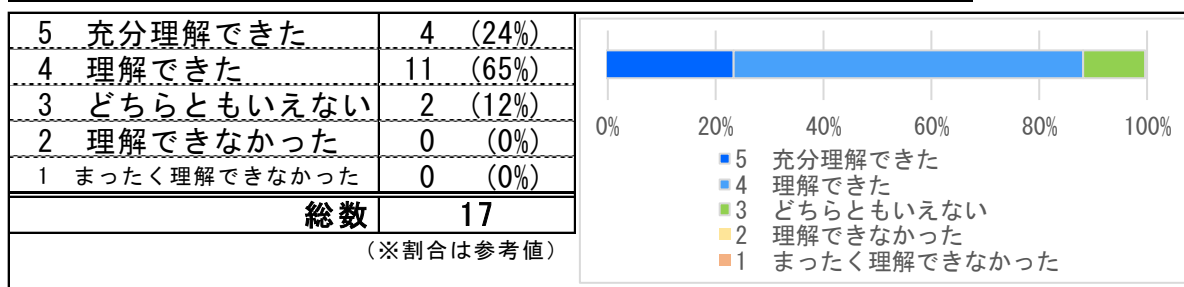
- 引きこもりの主婦には「場所」が大きすぎて…。原子力=未知（研究でわかるもの）の「わくわく」「オドロキ」がある場所なので。
- 開催日時はなるべく早く教えてほしいです。
- 発電所について、発表した通りで、反対とは言えない。
- 新規制基準対応工事は、国の許可を得て進められている。情報も発信されている。村民（我々）もそれらを理解する努力が必要ではないか。
- 原発問題という言い方は、トゲを感じる。問題としてとらえるか、東海村の特色でもあるので、問題はなくてもいいと思う。
- 会議に参加している方が、原子力発電所に関係する方が思っていたより多かったです。詳しい方が多いので、私で大丈夫なのかという気持ちがまだあります。皆さんのお話を聞いて学べたらと思いました。傍聴の方、記者の方も必要なのでしょうけど、部屋にいる人数は少なければ少ないほど、自由な意見が出るのでは？と思いました。
- 案外に原発問題を容認されている方がいて、ほっとしました。今の村の雰囲気は、反対の空気がただよっているように思っています。
- 席の間隔を一人分開けてほしい。
- みなさん自分の意見を明確に伝えていらっしゃる方が多く、驚きました。私も次回は何か発言したいです。
- 進行の方がとてもリードしてくださったのが良かったです。
- 写真等に写りたくない席は皆さん把握されているのでしょうか。前の方からとっている人がいて驚きました。
- 詳細な新規制基準についての現状を「わかりやすく」あってもよいのでは。
- 今はまだ何とも。

第2回 東海村「自分ごと化会議」アンケートまとめ（会議参加者）

1. 第2回「自分ごと化会議」に参加してみていかがでしたか。



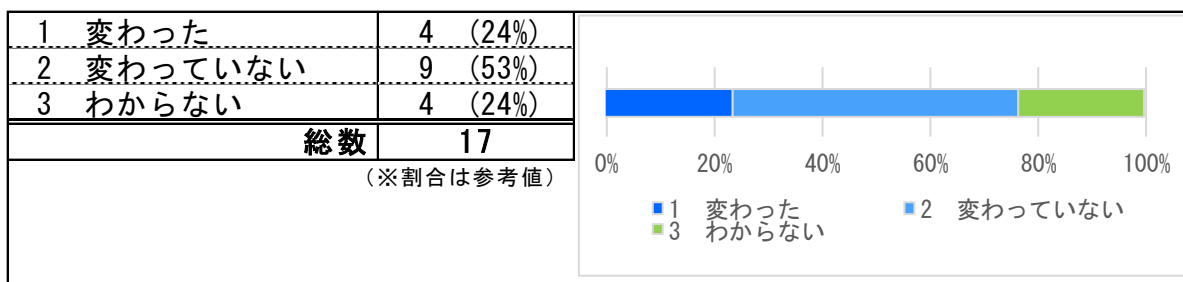
2. ”東海村”の原発の状況について、どの程度理解ができましたか。



(1) 理由や、理解できたこと・できなかったこと

- 事故が怖いのは分かるが、なんでもかんでも「原発NO」では、困る。
- 交付金についてくわしく知ることができた。
- 廃止へのプロセスが分かった。村の今後を考えるのが重要と再理解
- 資料が見やすかった
- 前回参加していなかったこともあり、自分の考え・意見がついていかなかった。
- 交付金はやはり聞いても良くわからないところがある。
- 本日の内容については分かり易く理解を深められました。
- 自分自身が予備知識がないのでわかりませんが、あえて口にしない部分があったりはしないのかとは思いました。
- 分かりやすい資料でした。ありがとうございました。
- 交付金のしくみ。
- 交付金の額と内容と、コスト面。

3. 自分ごと化会議に参加する前と比較して、原子力について意識の変化はありましたか。



(1) 具体的に変わった点

- 新しく原子力について学び直そうと思った。
- ニュースや新聞で原子力問題を見ると意識して見るようになりました。
- 色々なことを考えることで、結論はよくわからなくなってきた。でも再稼働はすべき。
- いろいろな考えを持っている人がいることを改めて知った。

4. 本日の話題提供や全体協議、会議全体について感想等がありましたらご記入ください。

(1) 話題提供について

- 顔出して、NHKの取材をして、放送後、意味不明な電話。
- まちづくりと絡めることは良いテーマだと思った。
- 安全性の前にお金の話になったのは何か変。
福島事故の原因があっても良いのでは。東-Ⅱと1Fとで何か違うか等
- 第1回目よりもおもしろくなってきました。
- メリットとデメリットとプラスαで色々知れて、とても良かったです。
- 村のスタンスも聞いて良かったです。
- 本日は、お金、経済、まちづくりにしぼっていましたが、原子力発電所の安全面についても、もっと詳しく聞きたい気がしたので、機会がありましたらお願いします。
- 良かったと思います。
- 原発のリスクは距離に応じて決まる（科学的には）。自治体への交付金というものは、正確にはリスクとつり合っていない。（周辺自治体）
- 参加者の発言の場が少ない様に思う。（私は沢山発言しましたが）
- テーマは、非常に興味のある内容であった。
- 「原子力発電の現状と立地地域の未来を考える」、「東海村の交付金事業とこれからの地域づくり」を説明された先生は、中立的な立場で丁寧に説明されていたのが良かった。

(2) 全体協議について

- 参加者の身元について、一回目の集まりがさも原発賛成者の集まりのように報道されるのにもやもやがある。
- 再稼働に何か必要かを協議したい。
- 原子力関係者の方が多いので、私が知らないような考え方や質問がたくさん出てきてすごいなと思う一方でむずかしいなと思うこともありました。
- 伊藤さんの会議の進行が上手でみなさんができてよかったと思います。
- 色々な意見が聞けて、なるほどと思うことがたくさんありました。
- ランダムに指名されて発言するのは良かったと思います。
- 良かったと思います。
- 時間が足りないと思う。

(3) その他、会議全体について（次回以降の会議に向けての要望など）

- 投影された画像が見にくい（暗い画像） もう少し明るくしてほしい。
- 議論内でもあったが、個人の情報に対する取り扱いを申し込み時にもっと明記すべきであった。申し込みを躊躇する一因でもあると私も感じた。次回の似たような会議では気をつけてほしい。
- 再稼働に何か必要かを協議したい。
- 台本が無い発表が不得意なのでとても緊張したのですが、相づち等嬉しかったです。
- 14市町村の避難計画の策定の進捗状況を知りたい。
- 数十年後の村のあるべき姿などの検討実績があれば知りたい。
- 今一度、全体のロードマップを知りたい。
- 会議時間は、3時間以内でお願いします。

東海村“自分ごと化”会議

日本原子力発電株式会社東海第二発電所等の施設見学 参加者アンケート結果

- 施設見学をさせていただいてよかった。発電のみでなくテロ等いろいろな対策多くにわたって問題にむきあっていることがわかりよかった。質疑応答でみなさまの話を聞いたこともとてもよかった。
- みなさんが、日々事故の起こらない様に仕事をされていること、自然災害、人的災害を防ぐ対策も行われていることが改めて良くわかった。しかし、その予測をも越えておこるのが福島のような事故であると感じる。どこまでやれば安全なのか…。熱を帯びた核のゴミ？を見てより多くの問題があることも実感した。
- 大規模な工事がなされていたのに驚いた。なかなか大変であると感じた。工事等安全にがんばって下さい。
- 東-II 安全対策工事の現状が確認出来、実際に見て安心出来ました。更なる安全対策を実施し、災害時でも安全安心な発電所にして下さい。
- 20 年稼働の為に安全対策費用をかけてやる必要があるだろうか。警備員の大きさにびっくり。安全対策と思うが、コストが高くなると思う。

➤ 日本原子力発電回答

国の許認可の結果を反映して実施される東海第二発電所の安全性向上対策は、稼働の有無にかかわらず必要と考えています。

また、2050年のカーボンニュートラル実現に向け、再生可能エネルギーも含めそれぞれの電源の特徴を踏まえバランスよく活用していくことが重要と考えています。

その中で、原子力発電については、安全性の確保を大前提として、重要なベースロード電源であると考えています。

当社は、東海第二発電所の安全性向上対策を確実に実施し、地域にお住まいの皆さまのご理解を頂きながら、原子力発電専業会社としての役割を果たしてまいります。

- 見学の機会をいただき、ありがとうございました。興味深く見学させていただきました。建物や設備等の実際の大きさを見て感じる事ができて良かったです。防潮堤が出来上がるまでに地震や津波が来た時はどうなるのかなと不安は残りました。移動の出来る電源車？があるとのことですが、浸水してきていても走れるのか？そのエリアは浸水しない高さなのでしょう

か。セキュリティ等はしっかりされていて安心しました。

➤ 日本原子力発電回答

東京電力福島第一原子力発電所事故を踏まえ、震災後速やかに緊急安全対策として電源車やポンプ車を配備するとともに津波で押し寄せた瓦礫を撤去するためのホイールリーダーも準備し津波襲来後速やかに対応ができるような措置を図っています。

あわせて緊急時の体制・要員の確保や各種訓練等を通じて万が一の災害に対応できるような取り組みを継続して行っています。

また上記の緊急安全対策の他、これまでの原子力発電の経験・知見を踏まえ「安全第一」を最優先とする改善の取り組みも継続しています。

これらのハード・ソフト両面からの対策に加えて、安全文化育成・維持の観点から「安全に関し言い合える職場風土を育成・維持すること」などの重要性を発電所で働く者全員に対して浸透するよう努めています。

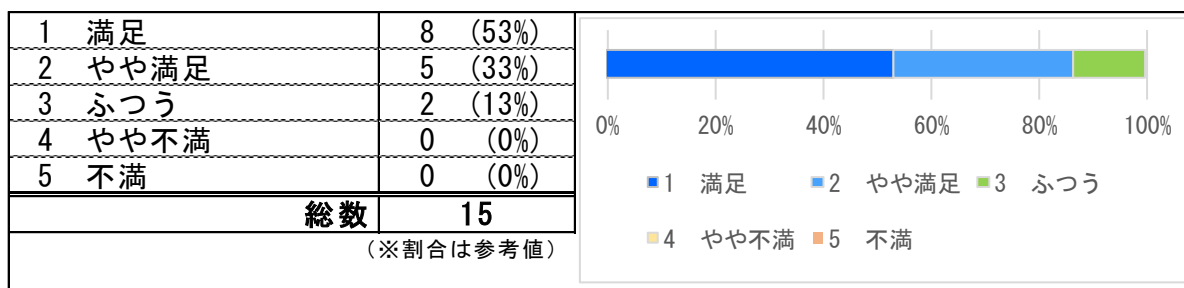
- 普段見ることのできない建屋を見学できよかったと思います。ただ、今日は雨が降らなかったのので歩いての移動に問題はなかったのですが、もし雨が降っていたらそれがタイムテーブル通りにできたのかは疑問です。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。
- 今回見学させていただき、非常に安心・安全に注力されていることがわかりました。今後、原子力発電の運転に関し、燃料のウランは将来にわたって数十年から先も安定供給が可能でしょうか？社会情勢や、埋蔵量のからみから教えていただくと助かります。
- 初めて BWR の内部を見たが、写真やプレゼンで見ていたとおりのものを見ることができ、印象的であった。一方、安全対策の構造物が予想以上に大きいものである印象であった。踏み込んだ説明もありよく理解できた。
- ご多忙の中、且つ貴重なお休みにこの様なお時間を作って頂き、本当にありがとうございました。見学させて頂いた施設のスケールの大きさや、安全への取り組みに率直に驚きました。何より、私が一番感銘を受けたのが、施設から伝わる現場の皆さんの積み重ねられた想いというか、熱量のような物を感じた事。きっと、どこまでも「安全」を追求しても「安心」では無いとか言い出す人は居るので、ガッカリする事もあるかと思います。「その一步は無駄では無い」講内で拝見したスローガン？です。本当にその通りだと思います。若手を大切にしてください。頑張ってください。応援しています。

- 安全対策の実施状況を見ることができてとても良かったです。安心感が増しました。ありがとうございました。
- 大変参考になりました。セキュリティーのきびしさ、燃料タンク？キャスクの温かさが衝撃でした。震災以前は見学の経験がありましたが何十年ぶりで見学させていただきました。職員の皆様の御苦勞をお察し御健康をおいのりします。ありがとうございました。
- 使用済燃料が10年を過ぎても熱をもっていて温かいのが驚きだった。冬場に、自宅でキャスクがあると暖房代が助かるな…と。切実なんです…。原子炉を近くで見ることができたのが良かった。（福島では見た事があったので）

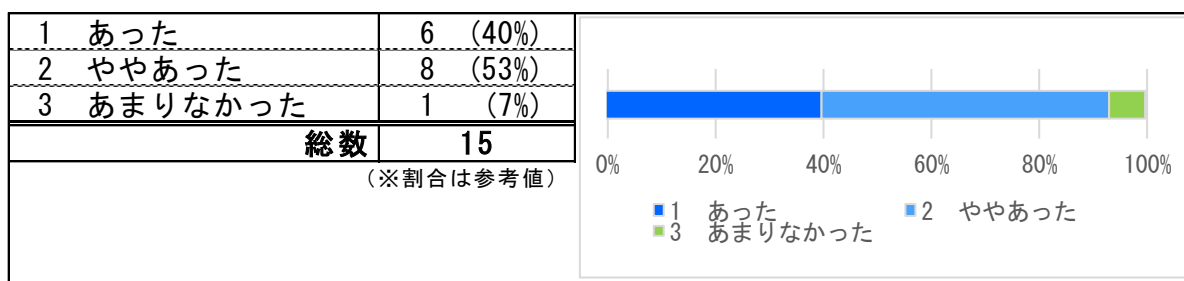
第3回 東海村「自分ごと化会議」アンケートまとめ（会議参加者）

参加者数 17 人、回答者数 15 人

1. 第3回「自分ごと化会議」に参加してみていかがでしたか。



2. 第3回「自分ごと化会議」の議論を通して、新たな発見や気づきはありましたか。



(1) 「あった」「ややあった」と回答した人はその内容を教えてください。

- 「避難する内容が、計画（案）では、先に進めない」。なるほど、と思いました。
- 避難計画がまだ案で、正式決定までのスケジュールがないこと。
- 「避難訓練」というキーワードから、「自分ごとなんだぞ」という思いや理解が更に深まった。
- 行政にまかせるだけでなく、自分で考えて、対策をしていくことの大切さにあらためて気づかせていただいた。
- 広域避難計画（案）の現状と今後の進め方（課題含む）。
- 避難先など中々知る機会が無かった。
- 「原子力と今後のまちづくり」について、考え方が飛躍的。レベルが高かった。
- 東海村広域避難計画を知った。
- 東海村が”原子力”の村であるというイメージを大切に、最先端の研究が行われる研究開発拠点でありつづけてほしいと思っています。そのために、村民は原子力に対して十分に理解し、原子力をうまく”使いこなして”ほしいと思います。自分の中で考えが整理できてよかった。
- どのような避難計画があるのかを知ることができた。
- 漠然としていた避難経路や行き先、避難訓練等々がしっかり頭に入りました。

- 避難計画は知っていたが、自分ごととして確認していなかったせいかな避難場所まで確認できていなかった。

なぜ計画（案）なのかの理由を確認できた。

- 古くから東海村に住んでいる人の意見を聞くことができた。
- 第三回目でこれから自分が何に向き合っていくべきかやっと大きな2つの柱が見えた。

1. 現在の柱 原発事故が起きた際の行動をどうすべきか

2. 未来の柱 原発に頼らない社会

1について、村の避難計画のある程度の指針は重要だが最終判断はやはり個々にあると感じ訓練や情報からその時の判断材料になるよう日々の備えが必要であると感じた。その為に国、県、村の避難計画案は日々更新されるべきだと感じた。

2についてはあくまで自分の夢みたいなものだ。

3. 本日の全体協議、会議全体について感想等がありましたらご記入ください。

- オンラインのせいかなタイムラグがあるような感じを受けました。ホワイトボードの文字が見にくくて困りました。
- いろいろな意見が聞くことができて良かったです。
- 有識者の時間が無くて良かった（前回、有識者の時間が長過ぎた）。
- 色々な意見が聞けてよかった。
- だんだん専門的レベルになって来た感じを受けた。
- 出来れば、具体的なテーマについて語り合っ意見を出す事ができれば良いと思いました。
- 東海村広域避難計画が（案）の状態である理由が分かった。分かった上で、自分の意見を言わせてもらおうと、制定するのに十分であるという基準を定めないと、いつまでも（案）の状態のままになってしまうと思います。
また、他の市町村の広域避難計画の制定を後押しする意味でも、東海村は率先して広域避難計画を制定すべきであると思います。
- 案から策定に至らないキーワードが最後まで良くわかりませんでした。
策定してしまったら改善する事はむずかしいから案のままなのでしょうか？
早い実行をお願いします。
- 避難計画についての多数の意見を聞けてよかった。
訓練の話も聞けて次回からは参加しようと思いました。
- 色々な人の意見を聞くことができてよかった。
- 避難計画、重要だが避難をするという判断が早ければ早いほど混乱や誤った情報が流れずに住民を過度に不安にすることなく速やかに行動へと導ける様な気がした。10年前双葉町の町

長に国から状況連絡がなかなか入らず、町長自らが避難指示を出したドキュメンタリーを観たことがあった。11の事業所が事故の際、いち早く情報を村や私たちに伝えてくれるのだろうか。

4. 次回以降の会議に向けてのご意見・要望等（知りたいことや議論したいことなど）ありましたらご記入ください。

- 無理だとは思いますが、もう一度原発内の見学がしたいです。子どもと一緒に見学できると良いなと思いました。
- まちづくりの根幹となる産業探し。
- 村の未来、どんな村にしていきたいのか、夢を語り合いたい。
- 特にありません。
- 有事になれば、もっと大変なのでまちづくりのためには、どんどん意見を出しあえたらと思います。
- 避難計画は（案）では無く「Revアップ」とか「年版」等として更新しても良いのではないかと（表記方法）。
- 参加者の中には原発の仕事に携わっている方が多数おられるが、仕事、村の財政、エネルギー問題等も無く単純に考えたらみなさんは原発が無い方が良いと思うのか聞いてみたい。稚拙な質問で何の議論にも発展しないと思うが「原発だけ」に対する意見を聞いてみたい。
- 避難指示が出た際、避難所へ行かない住民はいつどこで放射線チェックを受けられるのだろうか。

5. オンライン開催の感想についてご記入ください。

- ネット回線（環境）が良ければ、自分もオンラインで参加したかったです。Sound Onlyでは無理かな？
一カ所に人が集まる事で感染のリスクがあるのだし、オンライン開催大賛成です。
- それ程違和感は無かった。
- 特に問題はなかった。今後もオンライン開催可で進めて下さい。
- コロナの状況ではあったが、使えるので、今後も積極的に活用すれば良いと思う。
- 全体の雰囲気がかみづらい。
- 大変有意義でした。
- 参加者としては、全く問題なく感じた（自分が会場側に居たため）。
もし自分がリモートで参加することになれば、周りの雰囲気が分かりにくくなり、発言しにくく感じられるかもしれない。
また、コーディネーターの伊藤さんは少しやりづらそうに感じられた。

- ネットワークのスピードに少々問題があるかもしれません。
- 意見を述べている人の画面アップがあったらよかったですと思います。
- 会場の音声聞きにくい状況だったので今後改善してほしいです。
- 特に不都合はないですが、面着での実施の方が熱のある議論ができると思います。
- 後半、音声、画像が途切れる事が頻繁にあり、(トータル10分程)みなさんのお話を遮ることになる為、言い出しにくかった。ただ、内容はなんとなく理解はできていた。みなさんの表情が見えない点はマイナスだと感じた。しかし、コロナ対策としては他の方に配慮できる為、安心感があった。(自分が保菌者だったらというのが一番怖い・・・)7/22、前日のオンラインテストでは大変お手数をお掛け致しました。ありがとうございました。

東海村“自分ごと化”会議

福島第一原子力発電所等見学者アンケート結果

期 日：令和 3 年 10 月 3 日（日）
参加者：14 人（男性 10 人，女性 4 人）

(1) 見学しての感想をお聞かせください。(口印の1つをチェック。)

- 見学してよかった。 ...14
- 見学は意味がないと思った。 ... 0
- どちらでもない。 ... 0

上記を選択した理由

- ・当時のままの原発の建物を見る事ができて、あの爆発がどれほどの威力だったのか自分の肌で感じる事ができた。
- ・実際の規模感を実感できたことが良かったです。
- ・話で聞くのと見るのは違う。帰還困難区域の空屋、放置された家には心に響くものがあった。
- ・発電所の中だけでは無く地域の現状が見ることが出来てよかった。
- ・報道と実物を比較し凄さを感じ迫力を感じた。
- ・発電所の現状と実物を見られるよい機会であったため。
- ・もともと興味があったため。
- ・初めて福島第一原子力発電所を見ることができた。事故後 10 年の様子、廃炉に向けた取り組みが見れた。
- ・普段見られない場所や、ALPS 処理水を見ることができた。
- ・TV 等情報との比較が出来た。
- ・福島に震災後初めて来たので、ニュースでしか見たことのなかった発電所を見学できてその管理や対処方法等、肌で感じられて良かったです。
- ・実際の現場で放射線環境を体感できてよかった。
- ・報道だけでは知りえない状況を見れた。

(2) 興味・関心を持った所をお聞かせください。(該当する口印をチェック。複数可。)

【東京電力廃炉資料館】

- 廃炉資料館案内(シアター上映含む) ... 5

【福島第一原子力発電所】

- 既設多核種除去設備（既設 ALPS） ... 4
- 増設多核種除去設備（増設 ALPS） ... 4
- 1～4 号機原子炉建屋外観俯瞰エリア【降車】 ...11
- 地下水バイパス設備 ... 2
- サブドレン浄化設備 ... 0
- 海側設備 ... 2
- 6号機非常用ディーゼル発電機 ... 4
- 雑固体廃棄物焼却設備 ... 0
- 固体廃棄物貯蔵庫（第 9 棟） ... 0

□ 乾式キャスク仮保管設備	… 0
□ 免震重要棟	… 2
□ 高性能多核種除去設備（高性能 ALPS）	… 2
□ ALPS 処理水サンプル【降車】	…10

上記を選択した理由

- ・ 廃炉資料館は以前来ようとして、来られなかった所なので今回、見学できて良かった。
- ・ 実際に目で見える施設や設備が分かりやすく良かったです。
- ・ 震災当時から、福島原発問題については関心があり、色々な物を見て来たので、実物を実際に見れた事は大きなインパクトだった。
- ・ 事故の現実と目に見えるかたちでの今の工事や当時の設備の様子が見えたから。
- ・ 実物を見ることが一見。
- ・ ALPS 処理水の安全性を知ることが出来た。
- ・ 事故の状況と、その後の事故処理に深く関わるものであったため。
- ・ 原発事故をおこした原発は、これまでも廃炉が完了しているものはない。（チェルノブイリ、スリーマイルなど）各国のやり方は、大きく異なると思うが、各国の英知を結集し、解決して行ってほしいし、廃炉完了において、ひきつづき努力して行ってほしいと思いました。
- ・ いろいろと話題になっている ALPS 処理水を見ることができた。
- ・ 線量計があちこちで鳴っているながらの見学でした。ちょっと緊張。貴重な経験でした。
- ・ 今後の海洋放出をふまえ、積極的な安全性アピールが必要では。
- ・ 発電所を間近で見られて、事故の大きさ、その後の大変さを感じました。
- ・ 現場がどうなっているか、実際の目で見ることができ、勉強になった。
- ・ 自らの目で最新状況を見る事ができたから。

(3) 福島第一原子力発電所事故の教訓として自分なりに思うことをお書きください。

- ・ 想定外の事がありすぎたのだと思う。持ち上げる時は、これでもかという位持ち上げておいて落とすときは口汚く攻撃する。あまりにもひどすぎる。
- ・ 安全対策にも費用が多くかかるので、現実的な効率良い対策を知恵を絞って実行すべきだと思います。それが難しい場合は、最新鋭の原子力発電所にリプレースすべきです。多数の住民が近くにいることを再認識することが大事だと思っています。
- ・ 全てを把握し、理解する事は不可能だが、外部に、人に依存しないようにする心構えが重要だと感じた。（正に自分ごと化...）
- ・ 発電所を今すぐに使用せずに他のエネルギーにすべてたよれない現状なのだから、新しいデータにもとづいて発電所を改善して、変わりのエネルギーにきりかえられるまで、きちんと運用していく必要があるのではないか。
- ・ 原子力の安全・安心の神話が崩れた。東海の老朽化した原子力の安全対策費をかけるより、いずれは廃炉にする原子力費用にプールした方が良い。
- ・ 住民の目線では、かなり天災に依るものだと感じる。これも災害ととらえて、防災意識を高めるしかないのかなと思った。
- ・ 防げたはずの事故がおきてしまったことが、ただただ残念。外国に比べて、日本の原発の法整備や東電のリスク管理がバカすぎて悲しくなる。日本には原発が必要と考えているが、今の日本のレベルで扱って良いのか疑問です。
- ・ “想定外”の事象だと割り切るのではなく、現実的な研究開発と、それを踏まえた想定を正しく行い、必要な対策をつづけて行ってほしい。ただの“災害”として、すませるので

はなく、教訓として他の原発（東海第二も）対策を行い、つぎにすすめていってほしい。

- ・リスク管理面で、万が一東Ⅱが事故になったら、原電が東電並の対応出来るのか？
- ・物事に絶対はないということ、未来は誰にもわからないし、過去は変えられないという当たり前の事実を改めて思いました。・放射線に関する情報は、発信しても様々なバイアスがかかりやすいが、周辺環境に限ってはほとんど問題ない。自分なりに正しい情報の発信・受信に努めたい。
- ・昭和時代に建設された古いプラントを最新状況に併せて大幅修理を行わないと同じ事故に結びつくと思われる。DG・送配電盤の設置位置変更は計画有るか。

(4) 見学を通して印象深かったことや感想などをお聞かせください。

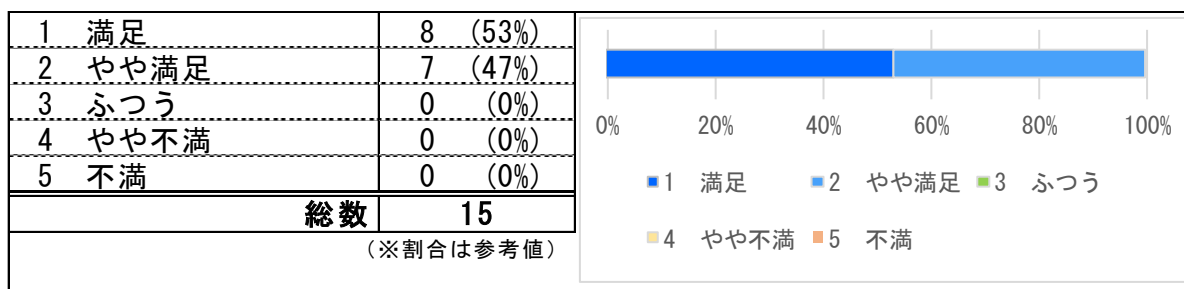
- ・第一原発の周辺の風景が一変していて悲しかった。緑が多い美しい場所だったのに…。
- ・屋外での線量管理がきちんとできていて良かったです。ありがとうございました。
- ・帰還困難区域に放置された家。
- ・水素爆発当時の姿のままの1号炉。同じ被災者として感じる物があつた。
- ・地域の様子がかんがなしかった。
- ・福島原発内へ立入れたことが良かった。（個人では無理）
- ・10年前のままで残っているものが多く、まだまだこれから処理が長く続くのを実感した。未知の技術課題が多いと思われるが、着実に進めていってほしい。
- ・ALPS処理水が見れてよかった。無色透明。トリチウム除去の難しさ。
- ・水素爆発をおこした建物、けっこうそのままなど。
- ・帰宅困難区域の看板の向こうの様子。人が住まなくなつて、ゴーストタウン化した国道6号線沿い。これが事故の最大の影響かな。二度とおこさない誓い。
- ・少しずつだが、復旧出来ているのが感じられた。
- ・発電所だけでなく、帰還困難区域の様子に荒れた店舗や、きれいな戸建の家にも住人が住めない景色に心が痛みました。
- ・見聞きはしていたが、実際に現場の線量が高かつたこと。東電の作業員の方には頭が下がります。これからもがんばって下さい。
- ・未だ建屋内部が見えている状況。
- ・バスを降車し、歩いてても手摺を触れても汚染しなかつた。（汚染飛散・拡大防止が徹底されていた）

令和3年10月3日・東海村（村民生活部）防災原子力安全課

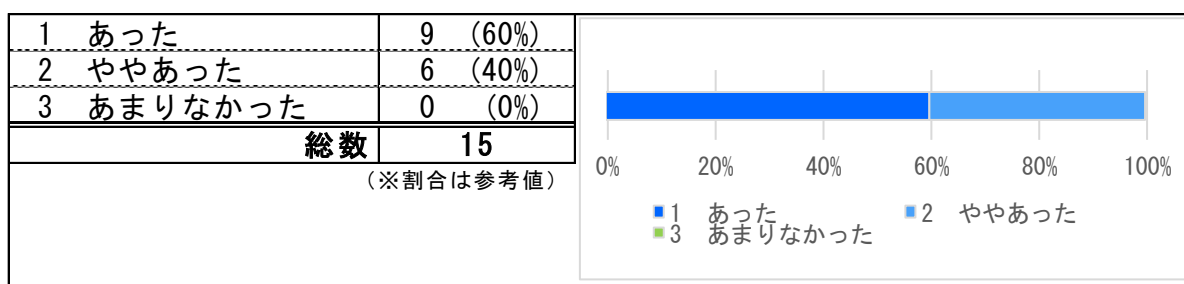
第4回 東海村「自分ごと化会議」アンケートまとめ（会議参加者）

参加者数 15 人、回答者数 15 人

1. 第4回「自分ごと化会議」に参加してみていかがでしたか。



2. 第4回「自分ごと化会議」の議論を通して、新たな発見や気づきはありましたか。



(1) 「あった」「ややあった」と回答した人はその内容を教えてください。

- ずっと東海村付近に暮らしてきた人がどう東海第二を考えているのかを知ることができた。
- 「切実感」が大切ということが分かりました。
- 会議に参加してきて本当に自分ごとと考えられた。
- 「課題」という言葉にビジネスライクに反応してしまっていた。ちょっと反省している。
- 原発があることの課題は、新しい視点を感じた。
- 東海第二があることのメリット／デメリットを認識できていないことに気付けた。
- 自分が自分で思っているほど自分ごと化できていないとわかった。
- 原発に対して、考える事が、いろいろな情報をひも付けていることが多くなった。
原発だけでなく、他の発電のメリットやデメリットについて考えることが増えた（原発も始めはメリットが言われたのと同じで、現在の太陽光や風力についてのデメリットが隠されていないか？不安！）
- 危機感がないと原発に対して興味を持って話し合うことができないのではないか。
- 安全性の向上という言葉が新発見でした。向上するための信頼感をいかに築くかが課題だと思います。
- テーマ①（みんなで考える、東海第二発電所が立地していることによる地域の課題は何だろう？）の討議の際、視野を大きくしすぎて、混乱をしてしまったが、他の参加者の意見をお

伺いしてはっとした。「今、しなければいけないこと」と「将来どうしたいのか」ということを分けて考えるべきだと。するとやはり①の課題は、避難だと感じた。

- 自分は日々のほほと過ごしている人だなあ…と（他の方々の意見を聞いて）。
- 立場の違いで賛否両論の話を聞けるのが良い。自分なりに判断する難しさを感じる。
- やはり色々な考え方があり、おもしろい。

3. 本日の全体協議、会議全体について感想等がありましたらご記入ください。

- 発言者の発言に対しての発言等が増えて来ていて、一層良い場になって来ていると感じる。
- いつもこの会議はプレッシャーを感じる。早く決着してほしい。長かった。
- 本日も色々な意見が聞けて大変有意義でした。
- 議論はして問題点等の共有はされたが、その先を見通した具体的な項目が見えなかった。
- 前回、前々回に比べ、みんなが発言できていてよかった。
- このような会議が、もっと多くあったら良いなと思いました。
- なぜか、今日の会議の雰囲気あまりぴりぴりした感じがなく今までで一番発言し易かった。4回目で慣れたのかな…。
- 賛成・反対の話はむずかしい。

4. 次回以降の会議に向けてのご意見・要望等（知りたいことや議論したいことなど）ありましたらご記入ください。

- 参加者同士での議論（やりとり）を増やせると良いアイデアが生まれるのではと思いました。
- 原発以外の東海村の課題等。
- アンケート用紙は事前に送ってもらえると色々書き込む事ができるので…。